

作期移動による玄米品質低下防止

福島県農業試験場会津地域研究支場
平成15～17年度試験成績概要

- 1 部門名 水稻－水稻－作型・品質
分類コード 01-01-18270000
- 2 担当者 松本靖・山内敏美・齋藤弘文
- 3 要 旨

中生品種(ひとめぼれ、ふくみらい)の作期移動(5月上旬・中旬・下旬移植、稚苗)による玄米品質低下防止法について検討した。

(1)移植期を遅らせる程出穂期が遅くなり、登熟期前半(出穂後5～20日)の日平均気温が低下し登熟適温に近くなった。

(2)幼穂形成期の茎数と穂数の比は5月下旬移植で高く、有効茎歩合の高い生育となった。5月上旬移植では出穂後20日以降の登熟期の葉色低下程度が大きく、窒素栄養凋落が目立った。

(3)2003年の冷夏年を除き、移植期が遅い程、白未熟粒、胴割粒の発生が少なくなり、整粒歩合、検査等級が高まった。

- 4 その他の資料など